

2021 年大学入学共通テスト 英語<リーディング>講評

あすなろ学院 英語科

【分析】

大問	読解内容	マーク数	配点	難易度	注目点	予想平均点
第1問	A:携帯メールでのやり取り	2	10	易	①総単語数 5340語 →昨年のセンター試験は 4384 語 →読解問題になり、語数が1000語近く増 ②マーク数は 47 →昨年のセンター試験は54 →マーク数は減少した ③試行問題や模試の傾向とは違った →これに戸惑った受験生もいると思う	55~58 点 標準レベル
	B:ファンクラブのウェブサイト	3		やや易		
第2問	A:コンペに対する評価	5	15	易		
	B メールでのやり取り	5		やや易		
第3問	A:ウェブサイト上の Q&A	2	20	やや易		
	B:交換留学生による学校新聞	6		やや難		
第4問	E メールでのやり取り	6	15	やや難		
第5問	ニュース記事	9	16	やや難		
第6問	A:記事とポスター作成	4	24	やや易		
	B:説論文	5		やや難		

※難易度→「易」…全問正解できる「やや易」…7割正解できる／解答を出すまでに時間がややかかる「やや難」…5割正解できる／解答を出すまでに時間がかかる「難」…正解できて3割

【全体講評】

これまでに実施されてきた、試行問題や模試で慣れてきた生徒からすると、一瞬面を食らった出題であった。しかし、一つ一つ見ていくと、難易度は高くなく、また、使用されている英単語も、文脈から類推しやすいものが多かった。これまでに英文精読をどれくらい行ってきたか、時間を計って英文を読む練習をしてきたか、その量が明暗を分けることを実感させる問題であったと思う。平均点としては、世間で言われているほど低くはなく、5割強くらいと予想する。

【全体講評】

第1問 A: 出だしから、これまでの傾向とは違ったが、設問と内容を考えてと解答しやすかったと思う。
 第1問 B: 問2の選択肢の単語で戸惑う受験生がいたかもしれないが、3問中2問は解答しやすかったと思う。
 第2問 A: 「表」は「事実」になることに気付いていれば、消去法で正解の選択肢を見つけることはできたと思う。
 第2問 B: 選択肢が多かったが、読み取る文章が短かった。問5で選択肢に悩んだ人もいるのではないかと思う。
 第3問 A: 問2でかかる時間を計算させる問題があったため、その情報を拾うのに時間がかかった人もいると思う。
 第3問 B: 問1の時系列を答える問題は、「文脈の流れとは異なる」とこと、「時制」に注目できたかどうか。
 第4問 : 問1、問2、問3で時間をとられた印象。この問題を解く際に、残り時間に余裕があれば問題なく解答できた。
 第5問 : この問題文を一気に読めるくらいの集中力が欲しかった。文脈把握がないと苦戦する問題だった。
 第6問 A: ポスターの空欄箇所を本文から見つけられれば、見た目以上に時間がかからないし、解答しやすい問題であった。
 第6問 B: 問2は、メモをとるなどしておかないと、解答のために色々と遡る羽目になり、そこに時間をとられたと思う。

【学習対策】

今回の問題とそれまでに至る模試などを考えると、早期に英語の基礎（語彙と英文法）を受験レベルまで仕上げて、いかに受験生の年に、英文の多読に取り掛かれるかが明暗を分けると思う。

いい例えかどうかは分からないが、「好きな漫画のことなら、誰から聞かれても答えられる」、「この曲は歌詞を見なくても、楽譜を見なくても歌える、弾ける」という自信は、何度もその漫画や音楽に触れていたからこそ生まれるものである。それと同じことが、この共通テストのリーディングにも言えると思う。「傾向に慣れてきたから、点数が取れる」という取り組みでは、7割の壁は超えられないと言える。

日ごろ取り組んでいる、教科書の英文に制限時間を設けて、内容把握する練習を行ったり、音読を取り入れたりして、目で追うスピードと理解するスピードのズレを無くす練習を取り入れて欲しいと思う。

また、LIVE 授業や ASU-vision の授業で行っている、「英文解釈」の講座を2年生のうちに受講し、英文法と英文を読むことへの土台を築いた上で、受験生の年を迎えるようにしよう。

2021 年大学入学共通テスト 英語<リスニング>講評

あすなろ学院 英語科

【分析】

大問	読解内容	マーク数	配点	難易度	注目点	予想平均点
1	A:短文発話・内容一致	4	25	やや易	①読み上げた単語数語 1,528 語 →センター試験 1,142 語 →制限時間は30分と変わらない ②配点が100点になる →センター試験では50点 ③第3問以降は読み上げ回数が1回 →センター試験では2回 ④聞き取った情報を駆使する問題 ⑤マーク数は37 →センター試験では25	50～53 点 標準レベル
	B:短文発話・イラスト選択	3		やや易		
2	対話文・イラスト選択	4	16	やや難		
3	対話文・質問選択	6	18	やや難		
4	A:図表完成問題(モノログ)	8	12	難		
	B:質問選択問題(モノログ)	1		やや易		
5	ワークシート完成(講義・長文)	7	15	やや難		
6	A 対話文・質問選択	2	14	やや難		
	B 会話長文・意見・図表選択	2		やや難		

※難易度→「易」…全問正解できる「やや易」…7割正解できる／解答を出すまでに時間がややかかる「やや難」…5割正解できる／解答を出すまでに時間がかかる「難」…正解できて3割

【全体講評】

読み上げられる語数が増えたこと、解答する問題が増えたこと、読み上げ回数が1回になった問題もあるなど、これまでの状況とは大きく異なるため、この変化を聞き取る前に気付いて、聞き取る準備が必要であった。気付くと、次の問題に移ってしまっていたという受験生も少なくないだろう。ただ、内容としては、センター試験の過去問題で練習していれば問題はなかったと思う。リーディング同様、変化にいち早く適応できたかが明暗を分けたと思う。平均点としては、世間で言われているほど低くはなく、5割強くらいと予想する。

【全体講評】

第1問 A:問3は2回目を確認できたかどうか、問4は「時制」への意識があったかどうかで決まった問題。

第1問 B:問6の最後の部分の内容が鍵。聞き取れた内容の意味が分からないと路頭に迷ったと思う。

第2問 :問9、問10の中盤から後半にかけて、何を言っているのか分からなくなったのではないかなと思う。

第3問 :ここから1回の読み上げなので、解答判断に時間をとられて、次の設問に目を向けていないと、十分な判断ができないまま解答時間が終わってしまったと思われる。

第4問 A:最初の問題は「割合」を答えるため、苦手にする人が多かったと思う。

そのあとの問題は、「選択肢を2回以上使ってよい」ということで、判断に意識をとられ、以降の問題を聞き取り逃した人が出たと思う。第3問でペースを崩されたまま、切り替えられずにいた人もいたのではないだろうか。

第4問 B:“条件”に意識を集中していれば、解答するのは簡単だった。

第5問 :最初の問題は“講義”だったので、一旦内容を聞き取ることに集中していれば良かったと思う。しかし、選択肢を見ながら聞いていると、恐らく内容についていけなくなり、放棄したのではないだろうか。次の問題も、最初の内容を踏まえての問題なので、人によっては、第5問が全滅したと思われる。

第6問 A:状況を踏まえて話全体を聞くことに専念できたかどうか。問いを聞き取ろうと試みると不明のまま終わったはず。

第6問 B:A 同様、話の内容をまず聞き取ることに専念していたかどうか。第5問以降は習得語彙量も影響したと思う。

【学習対策】

「どのように聞き取るか」のスタンス(「聞くなり聞く」、「聞きながら選択肢を見る」)の判断が求められた試験だったと思う。この判断が大きな差になったと思う。「リスニング=聞き取ればよい」という考えは、このテストには通用しない。また、単語を習得する際に、音を一緒に聞きながら覚えていたかどうか、リスニングをする際にはポイントになる。

対策としては、台本見ながらでいいので、同じスピードで声に出す練習を勧める。話したことがないスピードを聞き取るのは難しいからである。音源があるものであれば何でもいいので、同じスピードで滑らかに話せるまで練習してほしい。